

(2) 下流面

【施工概要】

ダムの下流面は、非越流部全面が劣化しており、冬期における凍結融解作用が主な原因と考えられる。劣化はブロックジョイント、水平打継目を中心に発達しており、一部は既に剥離し骨材表面が露出している状況だった。また、一部モルタル吹付けによる表面保護を実施した箇所は、モルタルの剥離が見られ、その機能を維持していない。

施工は、堤体の表面から概ね 100 mm 程度の劣化部を除去し、コンクリートで打ち換える工法を採用した。除去部の厚さについては、調査ボーリングの結果より決定したもののだが、補修に先立ち、下流面数箇所において試掘ハツリを実施し、劣化の程度を確認した。打ち換えコンクリートの厚さは、既設コンクリートの表面より 400 mm、総厚にして 500 mm 程度とした。平成 16 年 3 月より、下流面の補修工事に着手している。

図 3.4 に下流面補修範囲図、図 3.5 に補修詳細図、図 3.6 に補修断面図を示す。

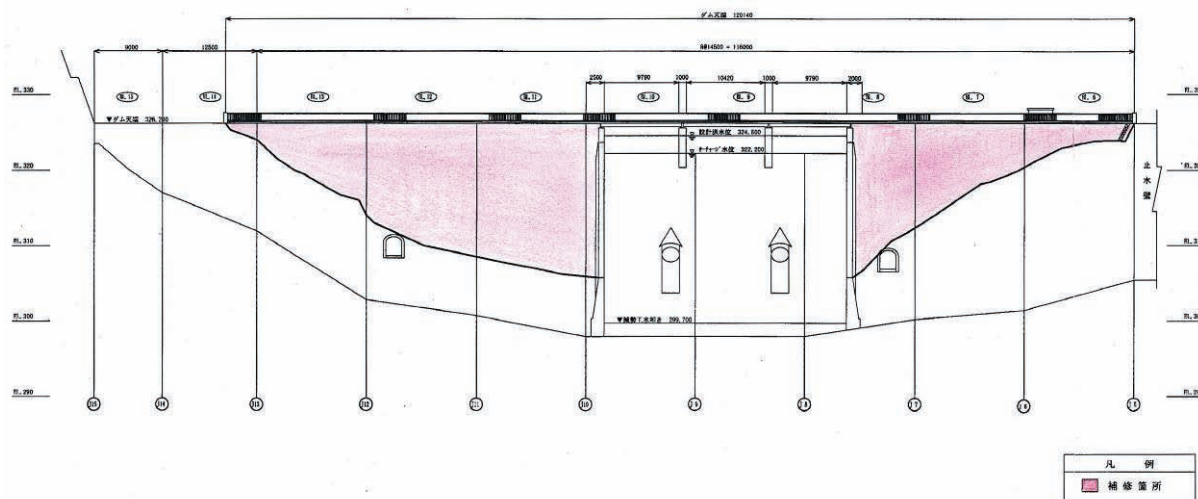


図 3.4 下流面補修範囲図

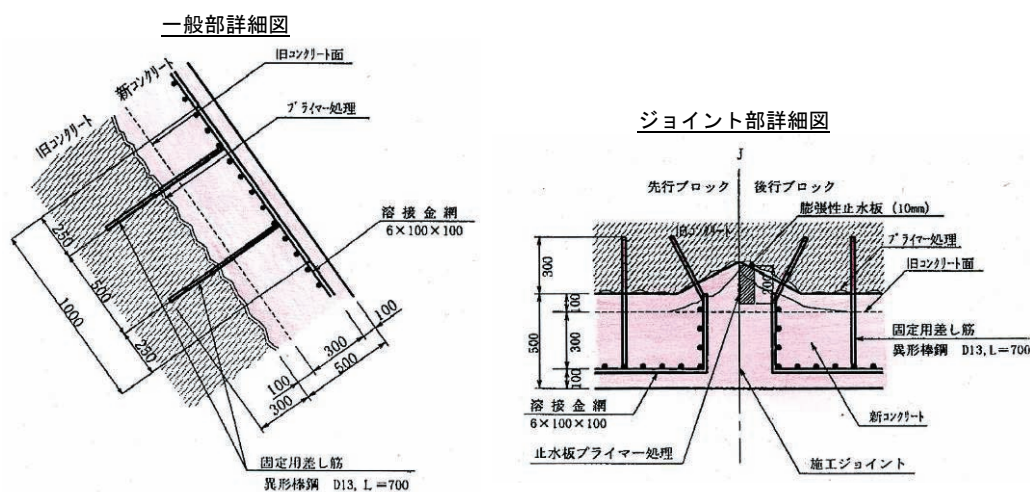


図 3.5 補修詳細図

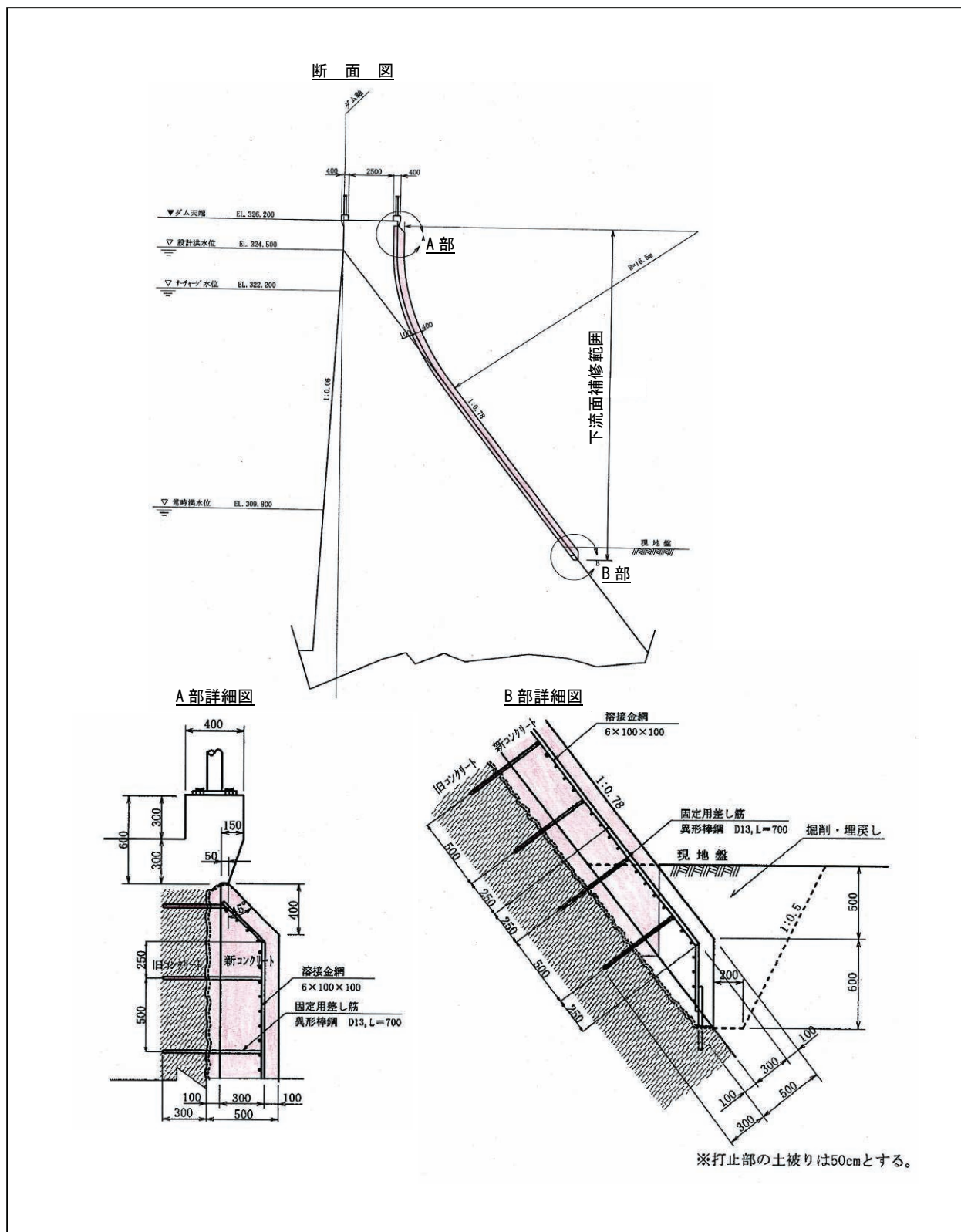


図 3.6 補修断面図



写真 3.25 堤体下流面着手前状況（左岸から）

【施工手順】

①仮設工（仮設道路工）

②足場工

下部を単管による傾斜足場、上部鉛直部については枠組足場を、ハツリ作業時とコンクリート打設時について2回設置した。ハツリ作業時には、ハンドブレイカーの施工を考慮し、通常の足場の間に0.6m間隔に中段足場を設置した。



写真 3.26 足場設置状況（左岸側）



写真 3.27 足場設置状況（右岸側）